

成果指標				
成果指標	12歳児の1人平均う歯数			
指標設定の考え方	12歳児の1人平均う歯数を成果指標とする			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目 標	0.3	0.3	0.2	0
実 績	0.29	0.19	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	各保健事業実施時に、乳幼児期から高齢者に渡り口腔に関する相談を受け指導を行うことで、意識を高めることに努めた。さらなる歯科保健センターの有効活用により、歯と口腔の健康づくりに取り組んでいくことが重要。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	歯科保健事業と健康づくり事業が連携して事業を進めていくことが重要である。集団歯科健診の導入により、歯科保健に関する市民の関心も高めていく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	成人歯科検診の実施など、歯科保健センターの有効活用を進めていく必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	下記の点を見直しの上、継続する。
意見、課題	二次評価の内容を踏まえ見直すこと。